

日本の学術情報の電子化—絶望の現在と不安な将来

千葉大学

土屋 俊

学術情報の流通が、インターネットを介した電子的ファイルの転送によって行なわれる「電子ジャーナル」化はもはや普遍的であり、今後当分の流通方式の趨勢、そしてそれともなう利害関係者の配置状況の変化、行動形態の変化、そして、研究者・学生の情報利用行動の変化を把握して図書館サービスの将来を構想する段階となった。しかし、日本国内で日本語で発表される学術情報に関してこの意味の電子化は著しく遅れているように感じられる。本講演では、まずそのことを検証し、かつ、その実態の細部を記述するとともに、原因を探り、さらに、将来についてもとくに改善が期待できるわけではないことを論じ、図書館として主体的に対応可能な当面の課題について検討する。